

## 「充実の開幕戦！」



昨年終盤から連勝このまま走るか #11



今年こそは頂点へ！ #15



爆発的な速さはないが、振り向けば #46



台風之眼になるか！ #21

2015K 耐久/GT 耐久東海シリーズがいよいよシーズンイン。愛知県蒲郡市のスバ西浦モーターパークで開幕した。毎戦接戦となるこのシリーズ、小型・普通車を使う耐久シリーズとしては稀有な存在として各方面から注目度も高まり、年々参加台数が増加している。

もちろん今年も接戦の予感。早春の蒲郡地方はまるで初夏の陽気、文字通りホットな舞台。

### 「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

一昨年のEK3のデビュー以来、急速に注目度が高まってきているこのクラス。昨年はそのEK3(VTIグレード)がタイトルを取ったものの、1500 ヴィッツやGE型フィット、さらにはDY5W デミオ、K12 マーチなどコンパクトハッチが次々と参加してきておりバラエティに富んだクラスとして成長を続けている。

さて、今シーズンの開幕には、GD(初代)フィットが初参加、少し懐かしいEP82 スターレットやNB6のロードスターなど多彩なマシンたちがエントリー。マシンの絶対スピードは速くないが、乗って楽しい楽しみ方が認知されてきた。

### ■予選

注目の予選トップは#15「シャトー・ラ・フィット」(GE型)1'04.642、昨年の第3戦にデビューすると連続表彰台、優勝こそないが高いポテンシャルを発揮し今シーズンの注目。4秒台と速さも増してきており全体でもトップテン入り。

2番手は#70「トータルセブンシビックGT」1'05.265、こちらはさすがのチャンピオン、主役はまだまだ渡さない。そして3番手は#11「アンリミテッドDXLヴィッツ」が1'05.450と続く。4番手はこれまでK耐久KTOクラスなどで数々の勝利を手にしてきた地元の雄ZESTチームが移籍、EPスターレットを持ち込んできた。

#21「ZESTルブロススターレット」1'05.454、このマシンはかつて富士チャンピオンなどで走ってきた車両で、代表の弁によると”脚のセッティングはまだそのまま”とのことで、どこまでイケるか。ここまでが5秒台。

5番手はニューカマー名門KRSが持ち込んだGDフィット#96「TeamKRS WM DLフィット」1'08.509、青メタもあざやかでどんなポテンシャルを発揮するのか。

6番手#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が1'09.404、7番手はもう一台のGDフィット#45「剛式レーシングフィット」1'09.630、この黄色のフィットはかつてBMW318を走らせていた剛式レーシングのもの、どんな走りを見せるのか。

8番手は#50「MSCJ奈良ロードスター」1'09.676、NA型ロードスター。そして9番手もロードスターだが、こちらはNBで#77「トータルセブンロードスター」1'09.839、ロードスター対決も見もの。

予選最後尾は#67「CRAZY FORCES VEX」1'25.124、今一つ調子が上がらないようだが、速さも増してきているだけに、決勝での巻き返しに期待。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■序盤

さあ序盤のスプリントは地力にまさる#70「トータルセブンシビック GT」がでる、追いかけるのは#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」といったところ。予選トップの#15「シャトー・ラ・フィット」は早め早めのピット作戦か、序盤は下位を走行。後半の伸びに期待。

ファーストドライバーを引っ張るチームが上位を走行、そのなかでフィット同士、ロードスター同士の同マシン対決がしばしばみられる。同クラス、同マシンにはやはり負けられない。

もう一台の注目マシン、#21「ZEST ルブロススターレット」、#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」との接触もあり今のところは中団以下を走行中、K 耐久とは違う GT 耐久ならではの雰囲気にも慣れれば上位進出もあるか。

予選最後尾の#67「CRAZY FORCES VEX」もなんとかペースを掴んできており順調に走っている。

## ■中盤

中盤でトップを走っていた#70「トータルセブンシビック GT」に痛いミスが出る、ピットロード速度違反のペナルティを消化できずに 3Lap 減算。それもあってかトップは#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」に、それを追うのが#15「シャトー・ラ・フィット」という展開に。

中団でも接戦を展開、#21「ZEST ルブロススターレット」を中心に、ほぼ同一 Lap で#45「剛式レーシングフィット」や 2 台のロードスター、96「TeamKRS WM DL フィット」が競り合っており、この辺りが表彰台圏内か。

しかしながら、いったんは後ろに下がった#70「トータルセブンシビック GT」も速さは健在、終盤からゴールにかけてどのくらい持ち直してくるかによって、順位は大きく変動する。

## ■終盤

混戦状態のまま終盤戦に突入。#96「TeamKRS WM DL フィット」のトラブルから SC ランなどもあったが、無事戦線に復帰、優勝争いは#15「シャトー・ラ・フィット」と#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」に絞られてきたか。3 位表彰台争いは#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」と#21「ZEST ルブロススターレット」といった様相で、まさにさまざまなマシンが入り乱れての混戦、コンパクトハッチの楽しみ方だ。



今回はミスに泣いたが本命に違いない #70



名門 KRS が仕掛けるフィットは注目 #96



NB の勝利 #77



NA もほぼ拮抗 #50

# Race Report



さて中団以下はどうだろうか、あいかわらずこちらも混戦模様。#77「トータルセブンロードスター」と#50「MSCJ 奈良ロードスター」のロードスターバトルはほぼ同一周回。NA 型とNB 型という違いはあるが、エンジンはともに 1600(1800 は 3C クラスとなる)だし、ほぼポテンシャルは拮抗、レース中の最速タイムでも 6 秒台の中盤と速さも互角。あとは作戦とドライバーの腕という実に楽しいゲーム。

それはフィットも同じ、年式によってリヤブレーキ等に多少違いがあるもの、軽量小型ボディは走行会にはピッタリ。現在は上位を走る#45「剛式レーシングフィット」だが、チーム的には「まだまだやることはたくさんあります」とのことで、#96「TeamKRS WM DL フィット」の追い上げを受けている。

## ■最終結果

最後、同一周回対決を制したのは#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、接触などもあったレースを見事しめ、昨年の最終戦に続き 2 連勝ということになった。

2 位はあと一歩及ばなかった#15「シャトー・ラ・フィット」、今回は惜しかったが栄光の初優勝は時間の問題か。

3 位は#46「ボーズヴィッツアンビシャス」とびぬけた速さはなかったが、気が付けばこの位置をしっかりキープ、いぶし銀の走りで表彰台を GET。

4 位は#21「ZEST ルブロススターレット」、こちらは GT 耐久初参加で勝手違った部分もあったかもしれないが、しっかりと完走。マシンのセッティングが決まれば既存チームの手ごわい存在に。

5 位はペナルティが痛かった#70「トータルセブンシビック GT」、それでも追い込みはさすが。6 位は#96「TeamKRS WM DL フィット」、初参加のマシンを完走まで持ってきた。7 位は NB の方のロードスター#77「トータルセブンロードスター」、8 位はもう一台の#50「MSCJ 奈良ロードスター」だ。9 位は何とか完走までこぎつけた、#67「CRAZY FORCES VEX」。最下位は最終盤にコースアウトを喫ってしまった#45「剛式レーシングフィット」という結果。

## ■総評

過去最高クラスの参加台数を集めた1+2 クラス、今回はリッター以下のマシンはなかったが、実にバラエティに富んだ車種が集まり接戦のレースを展開した。“いや～、面白いです！！”



粘りの走りで完走 #67



最後残念！ #45





序盤からほぼ完勝 #87



むむっ、またも 2 位 #450



久々の表彰台 #62



開幕戦は 4 位 #110



中団は毎回混戦 #106

## 「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

昨年の3Cクラス年間タイトルは一昨年に引き続き大混戦、優勝こそないが全戦表彰台の#450「トルネオの大冒険」が、わずか1P差でチャンピオンの座に就いた。もちろん今シーズン狙うのは表彰台の頂点だ。

ライバルたちも猛者揃い、#62「CLNチーム」、#87「瀬戸自動車チーム」、#110「アライメント浜松チーム」を中心に、今年も大接戦が展開されるのか。開幕戦はニューカマーも含めて9台がエントリー。

### ■予選

予選トップは昨年 1P 差でチャンピオンを逃がした#87「IDI SYC シビック」が 1' 01.717 で見事全体の PP を獲得、今年への気合を象徴。予選 2 番手は、昨年の王者#450「トルネオの大冒険」1' 02.776、もちろん狙うは「優勝」の二文字！。予選 3 番手は#110「DXL アライメント浜松レビン」1' 03.178、昨年投入したこのマシンにも慣れ、最終戦ではかつて OP クラスでの「定位置」にも復帰し、今年はいよいよタイトル獲りへのシーズン。

予選 4 番手は#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」1' 03.527、昨年まで使ってきたトレノにかわりレビンとしてきたこのチーム、AE111 愛にあふれた情熱を勝利につなげられるか。完熟走行でボンネットが開くトラブルで肝を冷やすが、なんとかタイム計測には間に合った。

5 番手#62「WN ワコーズCLNシビック」が 1' 03.712、一昨年のチャンピオンチームはこの位置から発進。6 番手は#106「D&M スパイクオート 106」1' 03.867、長年ブジョーを使ってきたこのチーム、インポートカーの走らせ方ならだれにも負けない。

7 番手は#68「センチュリー 21 シビック」が 1' 07.011、今回のニューカマーの一台、8 番手は#24「オートディレクションミニ」1' 07.816、昨年からの登場の BMW ミニクーパー、華やかさに加えポテンシャルがアップされれば面白い存在。

予選 9 番手はこちらもニューカマー#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」1' 08.897、こちらは AE101 型のレビン。

### ■序盤

序盤走るのは#87「IDI SYC シビック」、レース全体を引っ張り総合でもトップを行く、それを追うのは#110「DXL アライメント浜松レビン」あたり。#450「トルネオの大冒険」は早めのピット戦略か、ボードの上位には名前が上がってこない。ファーストステントを引っ張っているのは#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」。

中団では#62「WN ワコーズCLNシビック」と#106「D&M スパイクオート 106」が争い、#24「オートディレクションミニ」もついていく。

#68「センチュリー 21 シビック」、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」はまずはしっかりとペースを築きたい。

# Race Report



## ■中盤

中盤戦は優勝候補同士のバトル。トップの#87「IDI SYC シビック」を中心に、#450「トルネオの大冒険」、#62「WN ワコースCLNシビック」、#110「DXL アライメント浜松レビン」が絡んでの上位争い。

もちろん、#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」、#106「D&M スパイクオート106」といった有力チームもひけを取っていない。

#68「センチュリー 21 シビック」、#24「オートディレクションミニ」、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」の3チームも順調に周回を伸ばしている。

## ■終盤

終盤になっても首位をキープは#87「IDI SYC シビック」。全体のラップボードの最上位にその名を刻みながら周回を重ね、ゴールまで1時間の時点で、101Lapを消化。2位には2Lapの差で#450「トルネオの大冒険」、3位には98Lapで#62「WN ワコースCLNシビック」、4位には#110「DXL アライメント浜松レビン」が98Lap。この辺りが優勝と表彰台をかけての争い。

以下#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」が95Lap、#106「D&M スパイクオート106」が同じく95Lap、と全くの互角。

#68「センチュリー 21 シビック」が97Lap、#24「オートディレクションミニ」が82Lap、そして初参加の#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」はスピン・コースアウトと荒れたレースを展開ながらもなんとか完走に持っていきたい。

## ■最終結果

今シーズンの開幕戦のトップチェッカーは#87「IDI SYC シビック」、一時ラップリーダー譲るものの全体のトップでゴール！2位には、またも悔しい#450「トルネオの大冒険」が1Lap差。3位は#62「WN ワコースCLNシビック」がねぼって表彰台。4位#110「DXL アライメント浜松レビン」、5位#106「D&M スパイクオート106」、6位#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」といういつもながらの接戦え演じた。

7位#68「センチュリー 21 シビック」が完走、8位#24「オートディレクションミニ」も完走だが、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」はわずかに及ばず完走扱いとはならなかった。



コースイン早々肝を冷やしたが5位 #111



見事完走 #68



ポテンシャルアップに手ごたえ #24



コースアウトで完走ならず残念 #17





予選は全体の PP #87



途中タイヤ交換を敢行



## ■総評

9台を集めた今シーズンの開幕戦、1+2クラスに続き人気のクラスとなった3C。今回は全体のトップでゴールという、速さ・強さを見せた、#87「IDI SYC シビック」の勝利に終わったが、表彰台圏内はもちろん、中団あたりまで毎度の混戦模様という競ったレースだった。

シビックやレビン・トレノ(今回はすべてレビン)といったかつてのジャパニーズスポーツカーと、プジョー・ミニといったインポートカーたちがともに楽しむ、3Cクラス、アツい戦いが今年も幕を開けた。



さすがの勝利 #19



2位は初マシン #44



今回はすべてシビック #58



## 「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

昨年は、#19「YADOKARI シビック」が4時間戦を含む3勝をあげ、見事に100点（合計）チャンピオンというシーズン。他のクラスと比べると開幕は3台と少々さびしいが、改造車の魅力のつまったレースを期待したい。

### ■予選

予選はやはり#19「YADOKARI シビック」が速い、1'02.358で全体のPPは逃すもののきっちりフロントローに付けるあたりはさすが。それを追うのがニューカマー#44「剛式レーシングシビック」1'03.291、1+2クラスのGD3フィットと2台体制でエントリー、こちらはEG6、色味は違うが同じ黄色。3番手は#58「小林板金 EG6」1'05.095、昨年はシリーズ4位、最高位は3位という侮れないチーム。

### ■序盤

序盤から飛ばすのはやはり#19「YADOKARI シビック」、#44「剛式レーシングシビック」も離れずについていく。#58「小林板金 EG6」は3番手。

### ■中盤

中盤の焦点は#19「YADOKARI シビック」に、#44「剛式レーシングシビック」がどこまで食い下がるか。なんとか1~2Lapの差で食らいつく、これ以上は離されたくない。序盤ペースの上がらなかった#58「小林板金 EG6」も周回数を伸ばしてくる。

### ■終盤

終盤においても一騎打ちの構図、チャンピオンの#19「YADOKARI シビック」がうまくギャップをコントロール、#44「剛式レーシングシビック」の追従をかわしていく。#58「小林板金 EG6」も周回数をうわ積み、規定周回数は余裕でクリア。

### ■最終結果

結局#19「YADOKARI シビック」が強さを発揮、総合チェッカーこそ逃すが、王者の走りで開幕戦の勝利を得た。このマシンで初となった#44「剛式レーシングシビック」も3Lap差ながら見事な表彰台。#58「小林板金 EG6」も序盤心配されたが128Lapを堂々走行という結果になった。

### ■総評

さすがの強さを見せつけた#19「YADOKARI シビック」だったが、他の2台も侮れない実力の持ち主、まだまだ油断はできない。

